
惚れ惚れスプレー！！

操りフェチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

惚れ惚れスプレー！！

【Nコード】

N3351BA

【作者名】

操りフェチ

【あらすじ】

よしおは謎の男からどんな女も一瞬で落とせるという、『惚れ惚れスプレー』を手に入れ、さっそくよしおの身近な女性に使っていくことに！！

公園を出るよしお、ちょうど隣に綺麗な女性（恵）が近づいてきて、彼女にシュツと一吹きしてみたら・・・、なんと、効果は本物！！！！

この道具を使って、辞めさせられた会社の女性はもちろん、コンビニやメイド喫茶、果ては自分の家族までも我がモノに落としていく

！！！

果たしてよしおの目的はなんなのか？これから始まる素晴らしいストーリーをお楽しみ下さい！！！！！！

はじまり

主人公のよしおは30代半ばのサラリーマン。ある日、『仕事の能率が上がらないから!』たったそれだけを理由に会社をクビにされてしまう……。

よしお：「はああ……。これから先、オレどうなっちゃうのかなあ?」

よしおは落ち込んでいた。30代半ばと言えば、ちょうど課長ぐらいまで上がってくるであろうに……。これから先、途方もない人生を送っていくしかないのだろうか?そう思いながら公園のベンチで座つてため息を付いてると……。、

謎の男：「おや?元気がないですね?どうしました?」と、話しかけられる。

よしお：「実は……。」

よしおは謎の男からの質問に、違和感を抱きながらも答えていく。すると、彼の口から……。

謎の男：「そんなアナタに、立派なアイテムがありますよ!」

よしお：「何ですか?それは?」

謎の男：「惚れ惚れスプレー!まあ、通称惚れ薬ですね。」

よしお：「そんなのが、何の役に立つんだよ!」

謎の男：「まあ見てなさいって。」

謎の男は、スプレーをよしおの隣で座っていた美女に、シューッと吹きかけた。

するとどうだろう……。スプレーを吹きかけた女性は謎の男に寄り添い……、

女性A：「はぁ〜ン。好き〜!今すぐアナタと付き合いた〜い!」と、言い出すではないか

よしお：「マ、マジかよ……。こんな事があるなんて!」

謎の男：「これをアナタに差し上げます。ぜひ、使って下さい!で

わ、私はこれで・・・。」

謎の男はよしおにスプレーを渡すと、さっき惚れさせた女性とともに、その場を立ち去った。

よしお：「どうやらこれは、本物みたいだな！でも、まずちゃんと効くかテストしなければ。」

よしおは、さっき謎の男がよしおの目の前で見せたにも関わらず、戸惑っていた。

スプレーを持ち、公園を後にするよしお。ふと横を見ると、また、綺麗な人が歩いている。

（可愛いなあ・・・。ちょっと、試してみるか！）

よしお：「あの、ちょっとすみません・・・。」

恵：「なんですか？」

よしお：「顔になんかついてるみたいなんですけど、とっただけませんか？」

恵：「ええ？顔？」

シュー！！！！

よしおはゴミをとってもらったつもりで、女性に話しかけ隙をついてスプレーを吹く！！
すると・・・、

恵：「はぁーん、大好き・・・。」

よしお：「おお！成功だ・・・！！ホントに僕の事好き？」

恵：「うん。大好きよー！！！！」

よしおの女性たちへの復讐が、今、始まった！！

綺麗なお姉さん編

よしおの作戦は成功した！！よしおの横を歩いていた綺麗なお姉さん、

「恵^{めぐみ}」に謎の男からもらった『惚れ惚れスプレー』の効果を試した所、

見事恵はよしおから目が離せない状態に！！そうなってしまえば、ヤル事はただ一つ・・・！！

よしお：「ねえお姉さん、ちょっとエッチしない？」

恵：「私、その言葉を待ってたんです！」

よしお：「そうかい。じゃあ、さっそく始めようか！」

恵：「え？でも、公園で！？」

よしお：「え？ダメなの？」

恵：「もう、好きにして！！！」

よしお：「そう来なくちゃ！！！」

よしおが、公園でセックスしようと話しかけると、彼女は一瞬断りよしおはまさか、

この薬の効果が切れたのでは？と思ったが、もう一度話しかけると、「もう好きにして！！」って、

言われてしまった。なら、お望み通り、ヤルしかない！！！！

よしお：「さあ、上着脱いで！」

恵：「ハイ！」

恵はよしおの言われた通りに、服を脱ぎ出す・・・！そして・・・、おっぱいを触り始める。

よしお：「おっぱい・・・、触っていい？」

恵：「もちろん！！！」

よしお：「おお！でっかいおっぱいしてるなあ・・・！」

恵：「たくさん、揉んで大きくしてね！」

よしお：「では、遠慮なく！！！」

よしおが恵のおっぱいを揉む度に、「アン・・・アン」と感じ出す！！この声が堪らなく好きだ。

恵：「アア！！アン・・・！！」

よしお：「乳首が起つて来てますよ！」

惠：「乳首……舐めてゝ。はあゝン！」

よしお：「お姉さんのおっぱい、ホント、大きいね？」

恵：「おっぱいだけじゃなくて、ちゃんとオマ○コも犯して……。」

L

よしお：「分かってるって!!」

びしゅ・びしゅ・びしゅ・びしゅ・びしゅ

!!

恵：「ハアツ・・・ハアツ・・・ハアツ・・・ハアツ・・・ハアツ・・・」

よしお：「ほおら、濡れて来たよ!!」

恵のマ○コはもうびしょびしょだ。そろそろチ○ポを入れる時間かな？

そう思った次の瞬間・・・。

ビシャーン！！！！！！

恵：「はあ．．．はあ．．．はあ．．．」

よしお：「どうしたの？潮吹いちゃったね」

恵：「だって、よしおさんが激しくするから……！」

よしお：「でも、まだ終わりじゃないよ。」

恵：「もちろん、チ○ポを入れるんでしょ？」

よしお：「あ・たり〜!!!」

惠：「ハアッ！！！！！！！！！」

よしおのチ○ポが恵に挿入された途端、恵さんは思いつ切り絶叫する……。

バン・・・バン・・・バン・・・バン・・・バン・・・と、突き上げる度に恵は感じる・・・。

恵：「そ……そこ、キ……キモチいい……！」

よしお：「ダメだ！！オレ、もうイツちゃうよ・・・。」

恵：「お願い・・・。たつぷり出して！！」

よしお：「えっ！？中でいいの？」

恵：「だって、私・・・よしおさんの事が好きなんだモノ・・・。」

よしお：「よおし、じゃあお言葉に甘えて・・・！！」

相手から中に出してくれと言われたら、何も怖くない・・・！

思う存分に楽しんで、恵の中に思いつ切り精子を流し込んでやれば
いいだけだ！！

恵：「ハやく・・・きて・・・、でないと・・・私、また・・・！」

よしお：「も・・・もう出ちゃうよ？ホントにいいの？」

恵：「たつぷり出して！！」

よしお：「いい？出しちゃうよ？」

恵：「ハ、・・・イ・・・！！」

ドピューン！！！！

よしおの精子が恵のマ○コの中にたつぷりと注ぎ込まれた。

すると、恵はよしおにお礼を言ってその場を去るのだった。

恵：「今日は・・・。中に出してくれてありがとうございました。

また、お願いします。」

よしお：「いえいえ、僕で良かったらいつでもお相手しますよ！！」

恵：「ホントですか？じゃあ、私の名刺、上げますのでいつでも連

絡下さい・・・。」

よしお：「マ、マジかよ！！」

なんと凄い事に、名刺までいただいた！しかし、彼女がよしおから数メートル離れた後、

恵：「うん？何で私、こんな時間に公園なんて？」

どうやらこの惚れ惚れスプレーは、一度よしおから目が離れると
効果を失うらしい。

よしおはスプレーに書かれていた注意事項と効果をもう一度確認する・・・。

注意事項、効果

この『惚れ惚れスプレー』の効果は永久に続きますが、一度相手がアナタから目を離してしまうと、その効果は失われアナタがこの薬を相手に使用した事は一切記憶には残りません。

しかし、再びその相手と会った場合、もう一度吹きかける事無くまた、効果が戻り実行されます。

よしお：「なるほど！この薬の効果は、相手と一緒にいないと効果がちゃんと発揮されないって事なんだな。」

よしおはそう思いながら、次のターゲットである家へと急いだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3351ba/>

惚れ惚れスプレー！！

2012年1月8日20時47分発行